

平成30年度 大学院生命科学院
生命科学専攻 修士課程

第一次入学試験
「試験問題の出題範囲」

平成29年8月22日(火)～23日(水)に実施予定の生命科学院 修士課程 第一次入学試験に係る各コースの試験問題に関する出題範囲を以下に記します。

○生命融合科学コース

生命融合科学コースの出題は、生命科学を学んだ方のみならず、物理学・化学・生物学・数学などを得意とし、広く生命科学の分野に興味を持つ人たちも受験しやすい試験方法を実施します。大学院において、得意分野を中心にして、さらに広範な生命科学の教育を受け、研究に携わるために必要な能力について、当大学院・修士課程のアドミッションポリシーに謳う、向学心、基礎学力、技術・実践力、社会進出意欲に着目して、問うものです。具体的には、以下の試験を実施します。

生命融合科学コースでは、専門科目の筆記試験を課さず、以下の2種類の口頭試問を行う。

口頭試問(A) 志望動機、研究意欲など一般的な質問

口頭試問(B) 出願時に提出した研究要旨の説明、関連した基礎知識・学力

○生命システム科学コース

下に示した 11 問の中から 3 問を選択して解答していただきます。生命システム科学コースで出題される問題は、大学院における生命科学の教育を受け、研究に携わるための基礎を身につけているかどうかを問うもので、特殊かつ限定された高度の専門知識や理解度を要求するものではありません。全国の大学で用いられている定評のある教科書・参考書のレベルと内容で対応できる問題が出題されます。

出題分野

出題レベルの参考となるテキスト

1. 「代謝、細胞のエネルギー変換と酵素」
細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス) 2, 3, 14 章
2. 「遺伝子発現制御とその解析法」
細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス) 6, 7, 8 章
3. 「がんの分子生物学」
細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス) 7, 17, 20 章
4. 「細胞分裂制御に関わる遺伝子の働き」
細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス) 8, 17, 18, 20 章
5. 「植物の遺伝子発現と形態形成, 及びその研究手法」
細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス) 9 章
レーヴン・ジョンソン 生物学 [下] (培風館) 35, 40, 41 章
6. 「神経生物学」
細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス) 11 章
レーヴン・ジョンソン 生物学 [下] (培風館) 45, 46 章
7. 「細胞内区画とタンパク質の選別、細胞内小胞輸送」
細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス) 12, 13 章
8. 「脊椎動物の生殖と細胞間情報伝達」
細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス) 15, 19, 21 章
9. 「動物細胞の分化と組織形成」
細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス) 23 章
10. 「染色体とメンデル遺伝」
レーヴン・ジョンソン 生物学 [上] (培風館) 12, 13 章
11. 「神経行動学」
レーヴン・ジョンソン 生物学 [下] (培風館) 42, 45, 46, 47, 52, 53 章

○生命医薬科学コース

有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、生物科学Ⅰ、生物科学Ⅱ、物理化学・分析化学、薬理学、薬剤学の7科目から3科目を選択して解答していただきます。

※薬理学、薬剤学を同時に選択可能。(平成29年度入試より同時選択可能)

有機化学Ⅰ、Ⅱ:

有機化学Ⅰでは、有機化合物の構造・物性と基本的な反応について、有機化学Ⅱでは、反応と合成について、「ブルース有機化学」、「パイン有機化学」、「ウォーレン有機化学」、「マクマリー有機化学」等の教科書の内容とレベルで対応できる基本的な問題が出題されます。

生物科学Ⅰ(生化学):

タンパク質の組成・構造・解析方法、酵素の触媒機構・反応速度論・調節機構、糖質、脂質、代謝、エネルギー産生機構について、「ストライヤー生化学(第7版)」、「レーニンジャーの新生化学(第5版)」等、学部の生化学の講義で使用されている基準的な教科書のレベルと内容で対応できる基本的な問題が出題されます。

生物科学Ⅱ(分子生物学、細胞生物学):

生命医薬科学コースで出題される問題は、薬学・医学関連領域の研究に携わるために必要な分子生物学・細胞生物学の知識と概念、および考え方を問うものです。分子生物学は、「ワトソン/遺伝子の分子生物学(第5版)」6-14章 および 17章、の内容で対応できる基本的な問題が出題されます。細胞生物学は、「細胞の分子生物学(第5版)12章、13章、16章~19章、の内容で対応できる基本的な問題が出題されます。生命現象の本質を分子レベルで理解できる基礎学力を問う内容を中心に

物理化学・分析化学:

化学熱力学、反応速度論、量子化学、分子分光學、生体分子の物性・相互作用解析、定量分析、分離分析の範囲で、基本的な原理とそれに基づく公式の導出および応用について、標準的な物理化学の教科書(「アトキンス物理化学」や「スタンダード薬学シリーズ 物理系薬学Ⅰ、Ⅱ」(東京化学同人)、「分析化学」(丸善出版)、など)の基礎的な記載事項のなかから出題されます。

薬理学:

薬理学の基礎となる「薬物と受容体の相互作用」および「生体内情報伝達系」について問うとともに、神経系と循環器系に作用する薬物に関して、薬理作用とその機序、および臨床での適用と副作用に関する問題が出題されます。

例えば、「NEW 薬理学(改訂第6版)【南江堂】」ではp4~16、p41~171、p227~371、p381~412、p423~435 が該当します。

薬剤学:

薬物の吸収、分布、代謝、排泄に関する基本的な知識と概念、及び、薬物速度論に関する基礎的な計算問題が出題されます。また、製剤学・製剤技術に関する基礎的な知識を問う問題も出題されます。通常の薬学部の講義で使用されている基準的な教科書のレベルと内容で対応できる問題が出題されます。